

家族の絆

2015年秋 = Vol. 49 =

Contents

- 子どもを見守る地域のチカラ
～つながりは、あいさつから～
- 特集「教えて！親子のコミュニケーション」
- 5つの実践目標リレーコラム「記憶の向こう側」
- お知らせ「家庭教育フォーラム2015」「人権フォーラム講演会」

発行／西宮市教育委員会 問合せ先／社会教育課 TEL0798-35-3868



子どもを見守る地域のチカラ ～つながりは、あいさつから～

現在、「地域の子どもは地域で守り育てよう」と、地域ぐるみで子どもの見守り活動に取り組む動きが全国的に広がりを見せています。西宮市でも、地域の実情に応じた様々な見守り活動が各地域で行われています。

今回は、その一つである「樋ノ口地域」の子どもの見守り活動に密着取材しました。

「おはようございます！」「今日も元気でがんばってね」
樋ノ口小学校の朝は、子どもたちと地域の方々の気持ちのよいあいさつから始まります。

子どもたちの登校時に見守り活動をしているのは、防犯甲武見守り隊^{※1}の小椋さんや、堤町自治会の井上さん、高橋さんをはじめとする地域ボランティアの方々です。皆さんは、雨の日も風の日も毎朝、校門や通学路に立ち、子どもたちを見守っています。この活動は今年で7年目を迎えました。

活動のきっかけは、「樋ノ口地域をみんなが安全で安心して暮らせるまちにしたかった」と小椋さんは言います。あいさつを通して、子どもと地域の人が顔見知りになり、子どもから高齢者まで、地域の人がみんな互いを見守り合うまちづくりを目指すという想いは、今も変わることはありません。

「あいさつは、人と人とのつながり。あいさつを通して、子どもとつながりたい」と話してくれたのは井上さん。初めはあいさつをしてくれない子どももいますが、根気強く毎日声をかけ続けると、子どもが笑顔であいさつを返してくれるようになるそうです。今では、子どもたちから“あいさつのおじちゃん”と認識され、心を許して、話しかけてくれることもあると言います。

「子どもたちが大きな声であいさつをしてくれると、元気がもらえる」と高橋さんが言うように、子どもたちの元気な姿は地域の方々のパワーの源です。そのほかにも、「毎朝外に出るので健康につながる」、「活動に携わる地域



(左から)高橋さん、井上さん、小椋さん

の高齢者同士の見守りにもなっている」など、活動を通して生まれる効果はたくさんあります。

また、樋ノ口小学校では、先生たちも毎朝一緒に校門に立っています。小椋さん

は、「活動を続けることができるのは、校長先生をはじめ先生方が協力的で、“地域に開かれた学校づくり”を進めてくれているおかげ」と言います。樋ノ口小学校の子どもたちは、学校と地域の強いつながりの中で、たくさんの大人に見守られ、育てているのです。

「今後も見守り活動を続けたい」これは、活動に携わる皆さんの強い願いです。しかし、最近、活動に参加する人が減っているそうです。これは、共働き家庭や、定年後も働く人が増えたことなどによります。それでも、多くの人が地域の子どもたちのために、自分のできる範囲で楽しく活動してもらうためにはどうすればよいか。小椋さんたちは悩みながらも、地域の人が一歩踏み出してくれるよう、これからも声をかけ続けていきたいと言います。

すべては、樋ノ口地域の子どもたちのために、そして地域の人たちみんなのために。樋ノ口小学校での見守り活動はこれからも続きます。

※1「防犯甲武見守り隊」

平成16年に立ち上げられた地域ボランティア団体。現在、48名が登録している。朝の子どもの見守り活動のほかに、下校時の見守り活動や、ふれあい学童保育、昔遊び体験活動など、子どもと地域の人を“つなぐ”活動を行っている。

小椋さんに聞きました！

「最近ちょっと気になる子どもの様子」

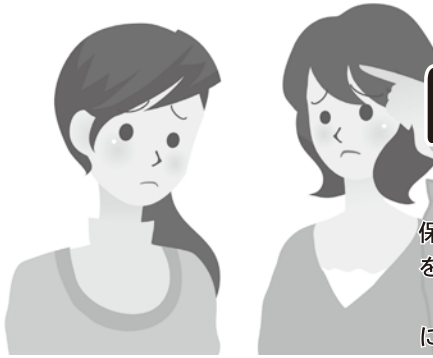
小椋さんが見守り活動の中で最近少し気になっていることは、「相手の目を見て話さない子どもが増えている」ことだそうです。目を見て話さなければ、相手の表情や気持ちを読み取る力が育ちません。ですから、子どもたちには「目を見て話そうね」と声をかけるようにしていると言います。

ご家庭でも、まずは親がしっかり子どもの目を見てあいさつをしてあげてください。



特集

こんなときどうすればいいの？ 「教えて！親子のコミュニケーション」



家族のつながりや絆は、家庭での親子の会話をとおして深まるものです。しかし、多くの保護者が親子のコミュニケーションに不安や悩みを抱えています。特に、思春期のお子さんを持つ保護者は、難しい時期だと感じ、話題づくりにも一苦労されているようです。

そこで、今回は、西宮ライフスキル研究会の大東和子さんに、親子のコミュニケーションについて、保護者から寄せられた質問にお答えいただきました。

教えて！こんなとき 《幼児編》

Q1 子どもからどうすればうまく話を聞き出せますか？

幼稚園児の娘は、何か言いたい様子で話しかけてきますが、自分の思っていることがうまく伝えられないことがあります。親が「こんなこと？」「あんなこと？」と聞いてみますが、それが娘の言いたいこととは違うと、怒ってしまいます。

A1 お父さん・お母さんにたくさんお話がしたいのですね。子どもは、それぞれ自分なりの表現で一生懸命伝えようとします。「今日〇ちゃんといっしょに積み木をしたよ」「積み木をしたのね」「△ちゃんが来て、『動物園にしよう』と言ったよ」「動物園を作ったのね」と、笑顔でうなずきながら、話したことをゆっくりと繰り返してあげてください。お父さん・お母さんがゆったりと聞き入ると、お子さんは感じたことや気付いたことも話すようになるでしょう。

教えて！こんなとき 《小学生編》

Q1 「別に」としか答えない子ども。どうしたらよいですか？

小学5年生の娘に、学校での様子を聞いても、「別に」「普通」としか答えられません。親子の信頼関係がうまく築けていないのかなと少し不安に思うことがあります。

A1 お子さんは、自分の世界を作り始めているのでしょう。本当はいっぱいおしゃべりしたいのに強がっているのでしょうね。いつでも相談に乗るよという姿勢で、お子さんが声をかけてきたときには、手をとめて聞いてあげてください。悩み事の相談があったときには、「あなたと私だけのひみつね」と伝えてください。お子さんの好物と一緒に作ることも楽しいひとときになりますね。

Q2 子どもがマイペースすぎて心配です。

小学生の息子は、好きなことには、積極的に取組みますが、気の進まないことにはなかなか取組もうとしません。社会で生きていくためには気の進まないことにも取組まなければならないと思うのですが…。

A2 お子さんには好きなことがあり、それに没頭できることは、素晴らしいことです。子どもは、様々な体験をする中で着実に生きる力をつけていきます。今、お子さんが集中しているマイブームをまず認めて、自信を持たせてください。それは、きっといろいろな力に転化することでしょう。

教えて！こんなとき 《中高生編》

Q1 簡単に「死ね」と言う息子に命の大切さを伝えるには？

中学生の息子が、思春期のせいか、最近口が悪くなってきました。簡単に「死ね」と言います。年頃の子どもに、命の大切さを伝えたり、人権意識を育んだりするためにはどうすればよいのでしょうか？

A1 思春期は、疾風怒濤期とも言われています。大きく揺れる自分の気持ちに振り回されて、どうしたらよいのか途方に暮れることも度々あります。これは、誰もが通る成長の一過程です。お子さんの発する「死ね」は、実は、「大好き」というメッセージであることがあります。お子さんが、心にグサッとくることを言ったときには、I（アイ：私）メッセージで「言われた私は辛いわ」と伝えながらも、お子さんの本当の思いや願いをしっかりと受けとめてあげてください。しばらくの間、お子さんを信じて、見守ってあげてください。

Q2 投げやりな態度の娘にどう接したらよいのでしょうか？

中学生の娘は、最近よく「どうせ私なんか・・・」と投げやりな態度を見せます。親としては、「あなたのことが大切」と伝えたいのですが、なかなかよい言葉かけが思いつかず、親が一方向的に子どもに話しかけていることがよくあります。

A2 きっと友だちといろいろなことを比べて、「自分は劣っているなあ。何もとりえがないなあ」と自信を失っているのか、自分の立てた目標になかなか届かなくてあせっているのかもしれませんが。娘さんに、家族の一員として大切な家の仕事を一つ任せてみましょう。娘さんが任せた仕事を終えたときには、「いつもありがとう」「助かるわ」と伝えましょう。日常的な何気ないひと言が、大きな心の支えになるでしょう。

Q3 親子の会話が減ってきてしまいました。

高校生の息子は、口数が少なくなり、親が話しかけても、そっけない返事ばかりです。暴言・暴力はないのですが、家では笑顔が減ってきたので、不満や嫌なことがあるのかと聞いても、「特にない」と言うのみです。

A3 この時期は、人生の様々な課題に向き合っている大切な時期です。そして、自分を大人扱いしてほしいと強く願う時期でもあります。大人同士というスタンスでの意見交換が必要です。「相談事があればいつでも聞くよ」という姿勢を持ち続けて、必要とされたときには、ひとりの大人としての意見を持って、お子さんとやり取りしてください。



今回のテーマである「良好なコミュニケーションをする」上で、大切な力があります。それは、「ライフスキル」です。「ライフスキル」とは、WHO（世界保健機関）が提唱したもので、「人が自分らしく、よりよく生きていくために必要な心理社会能力」です。

私たちの研究会はこのライフスキルを高めるため、48のプログラムを開発しました。今回はその中から人気ベスト3のプログラムを紹介します。

西宮ライフスキル研究会 **大東 和子**

学生時代は、両生類の生態調査のため、ゼミ生たちとテントを担いで、屋久島や隠岐島へ。小学校教師、今年で41年目。15年前に仲間たちと西宮ライフスキル研究会を立ち上げ、ワークショップを全国で実施中。



ライフスキルプログラム

人気 **BEST 3**

1 ハートビーイング

(コミュニケーションスキル・対人関係スキル)

《目標》言葉が人の心に与える影響について知り、人と良好な関わりを持つことができるようになる。

《方法》今までに人から言われて悲しかった言葉や嬉しかった言葉を思い出して書き、その言葉を言われたときの気持ちを考え、言葉が人の心に与える影響について知る。

《結果》言われていやな言葉・辛くなる言葉は、年代や役割によって違います。

子ども：「早くしなさい」「何回言ったらわかるの」

大人：「わかってたやん」「今から始めても」「年相応に」

「優柔不断」「がんばりすぎる」

ところが、言われて嬉しい言葉・元気になる言葉は、同じです。「ありがとう」「助かった」「一緒にしよう」

「大好き」「笑顔がすてき」「よかった」「楽しいね」

などが、いつも出ます。

人の心を元気づける言葉や勇気づける言葉は、言っても言われても、聞いてもうれしく、心がほっこりします。家庭や職場でこれらの言葉があふれると、すばらしいですね。

2 自分カルタ

(自己認知スキル・他者理解スキル)

《目標》別の視点から自分を見直す。短所も見方を変えると長所になる。

《方法》自分の短所を書いたカルタをグループ内の他の人に渡し、そのカルタの裏に長所に直して書き換えてもらう。

《結果》飽きっぽい→好奇心旺盛な・おこりっぽい→感受性豊かな・でしゃばり→世話好き、などと書き換えてもらうと皆笑顔になります。

お子さんの気になる性格も見方を変えると立派な長所になります。家族や職場の仲間たちの気になる性格も見方を変えると、また違ったやりとりができるようになるでしょう。

3 よいとこビンゴ

(自己認知スキル・他者理解スキル)

《目標》自分の良いところに気がつき、自分を好きになる。

《方法》自分が自慢できることやすてきだなと思うことをビンゴ用紙に9個書く。相手をさがして書き入れたことを言いあうビンゴゲームをする。

《結果》本をよむのがすき・お手伝いが大すき・絵をかくのうまい・やさいをいっぱいたべる・妹にやさしい・・・など、子どもたちは、自分のよいところをたくさん見つけることができます。また、友だちの良さを再発見します。ビンゴにならなかった子どもたちには、「友だちが持っていない宝物をもっているのね。そのよさを大切にね」と声をかけます。

お子さんが発する様々な言葉・・・私たち周りの大人たちは、耳を傾けて聴き入り、本当の思いや願いを聞き分けることが大事なことでしょう。

思いやりのある西宮っ子を育てる

5つの実践目標 リレーコラム

平成23年に西宮市家庭教育振興市民会議が新たに提唱した家庭教育の「5つの実践目標」をテーマとして、家庭教育振興市民会議の委員や家庭教育関係者などに自身の体験や思いを投稿していただくリレーコラム。今号は、「5つの実践目標」5つの実践目標の中から「外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい」をテーマに、「遊び」について、西宮市教育委員会 前川教育次長にお話しいただきました。

→ 外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

記憶の向こう側

人は生きるために生まれてきます。生きるとは世界の広さを知ることであり、さらに、その広さとは、自分とは別の意識や意図と交わることによる関係性や時間・距離といった時空を越える感性の豊かさです。世界の広さを知る幼少期の「遊び」の体験は、感性を培い、人や自然と共に生きているという実感や達成感として記憶に刻まれます。

私は以前から、遊びに関する調査の多くが、携帯ゲームを遊びとして取り上げていることに違和感がありました。それは、私の知っている「遊び」とは、お絵かきなどの一人遊びの世界から、友や自然と交わる広く豊かな世界として、深い記憶の海に澱のごとく在り、その後の人生の様々な場面においては、生きる力とな

り人生の可能性を拓けてくれるものだったからです。遊びとしての功罪が語られる携帯ゲームなどは、さしずめ「娯楽」といったジャンルのもことになるわけです。ですから、私にとっての「遊び」語りは、記憶の向こう側を辿ることに尽きるわけです。「探検・化石／捨て犬・約束／喧嘩・転校／コウモリ・帰り道・・・」といった具合に。

私に詩思を与え、私の少年時代にして 尚且つ思索に耽らしめたのは、故郷の山河である。

— 三木露風「我が歩める道」より —

西宮市教育委員会 教育次長
前川 豊



お知らせ



やってみよう 声かけよう
子どものために

2年に一度開催の「家庭教育フォーラム」が近づいてきました！

■ 日時 平成27年10月31日(土) 13:00～16:00
■ 場所 西宮市大学交流センター 大講義室

今年度のテーマは、「やってみよう 声かけよう 子どものために ～さあ、あなたはどんな一歩を踏み出しますか～」です。学校・家庭・地域のつながりの中で、大人一人ひとりが子どもたちのために、今できることをみんなで考えましょう。

その気になる内容は・・・

講演

1番大切な人が見えていますか？

忙しい毎日の中で、何だか少し急ぎすぎているいませんか？大路先生の心温まるお話で本当に大切なことを思い出し、優しい気持ちになってください。

(講師)元西宮市立小学校長 **大路 亨さん**



歌

歌だからこそ伝わるがあります

“ちめいど”の心に響く歌声で、きっと幸せな気持ちになります。すると、あなたはきっと誰かにその幸せを分けてあげたくなくなるはずです!!

(出演)兄弟アコースティックデュオ **ちめいど**



子どもたちへの想いをカタチに・・・



子どもたちのために「こんなことがあったらいいな」「こんなことをしてみたい」をカタチにするにはどうすればよいのでしょうか？私たち5人と一緒に考えましょう。

(コーディネーター)教育サポーター **仲島 正教さん**



元西宮市立小学校長 **大路 亨さん**



西宮市立深津小学校長 **山根 弘昭さん**



西宮市PTA協議会副会長 **池田 知子さん**



夙川地区青少年愛護協議会会長 **奥 光男さん**

大路 亨さん 山根 弘昭さん 池田 知子さん 奥 光男さん



ものがたりを通してやわらかな関係づくり

～絵本の読みあいから～

■ 日時 平成27年12月9日(水) 10:00～12:00

■ 場所 西宮市立中央公民館 講堂

■ 講師 村中 李衣さん (ノートルダム清心女子大学 教授)

※「家庭教育フォーラム」「人権フォーラム講演会」のお申込は、社会教育課まで。
TEL:0798-35-3868 E-mail:vo.k.shakyo@nishi.or.jp
* 託児(要申込/各先着10名)もあります。

教職員が子どもたちと向き合う教育環境づくりのために・・・

教職員が児童生徒とじっくり向き合う時間を確保するために、兵庫県教育委員会の新対策プランに基づき、校務の見直しを行い、『教職員定時退勤日』、『ノー会議デー』、『ノー一部活デー』を各校で設定しております。保護者、地域の皆様のご理解をよろしくお願い致します。

(教育職員課)